

## 議事録

1. 日時 令和2年9月11日(金)10:00-12:00

2. 会場 オンライン会議

3. 出席者 26名（敬称略、名簿順）

小池俊雄、春山成子、大西隆、春日文子、川崎昭如、小松利光、佐竹健治、塚原健一、山川充夫、和田章、小森大輔、高橋良和、西嶋一欽、緑川光正、目黒公郎、望月常好、山岡耕春、天野雄介、小野裕一、佐谷説子、田村圭子、西川智、西口尚宏、林春男、廣木謙三、ラジブ ショウ

陪席者 田端憲太郎・山崎律子（NIED）、池田鉄哉（ICHARM）

4. 配布資料

<https://dias-edb.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/openfb/cgi-bin/opentop.sh?tkoike+66607720502> に掲載

5. 議題

アクション・アイテム

(1) 前回議事録確認

<10\_01\_第9回\_防災減災国際展開検討委員会\_議事録.docx>の説明

(2) 国内外連携活動の報告

1) IRDR 次期計画

<資料 10\_02\_01a\_POST IRDR.docx>、<資料 10\_02\_01b\_Progress on the DRR research agenda-SC23.pdf>、<資料 10\_02\_01c\_Global Science in Support of Risk-Informed Sustainable Development and Planetary Health.pdf>の説明

- ・ 全体的な進行が遅れており、これから動き始めるところ。林先生とラジブ先生は Review Group に所属しており、国連大学の方が Drafting Team に入っている。
- ・ Risk KAN や Urban Health 等との連携はどのような計画か。Planetary Health は Future Earth-Health KAN の鍵概念でもあるので連携が重要。
  - 資料 10\_02\_01c の 6 ページ上部に記載する機関との連携を計画している。

2) グローバルアセスメントレポート(GAR)2020

<資料 10\_02\_02a\_CALL\_FOR\_PAPERS\_GAR2022.pdf>、<資料 10\_02\_02b\_GAR2022\_Pre-Zero\_Draft\_Annotated\_Chapter\_Outline\_22.05.2020.pdf>、<資料 10\_02\_02c\_proposal\_

## 資料 24-11-01

from\_Tenkai\_SCJ.docx>の説明

- ・ 提言の概要を英訳したものを UNDRR へ提出し、先方から受領の連絡があった。  
9/19 までに Review の結果が届く予定。
- 3) 第3回世界防災フォーラム  
<資料 10\_02\_03\_第3回世界防災フォーラム.docx>の説明
- 4) 防災学術連携体  
<資料 10\_02\_04\_防災学術連携体の活動(20200905).docx>の説明
- 5) 防災減災連携研究ハブ  
<資料 10\_02\_05\_防災減災連携研究ハブ.docx>の説明
- ・ 科研費は採択されなかった。
- 6) 新型コロナウイルス感染症大流行下の水防災に関する国際オンライン会議  
<資料 10\_02\_06a\_新型コロナウイルス感染症大流行下で水災害関連災害に対処するための原則.pdf>、<資料 10\_02\_06b\_新型コロナウイルス感染症大流行下での水災害対処に関する国際オンライン会議\_開催報告\_\_09112020.pdf>の説明
- ・ 天皇・皇后両陛下にとって初めての Web 会議御出席であり、大変意義のある会議であったとのコメントがあった。両陛下が災害およびコロナ禍の感染症の問題に強い関心を持つとともに、心配されていることが伝わってきた。
  - ・ コロナ禍で医療関係者やコロナの患者をどう守るか、医療と災害の危機をどのように統合するかについて、国際機関が協力のもと原則論を取りまとめたので、皆様からのご意見をいただきたい。
- 7) Asia Pacific Science and Technology Conference for DRR  
<資料 e2020APSTCDRR\_Announcement\_Updated\_26Aug20\_revised\_v2.pdf>の説明
- ・ アジア防災大臣会合に提案するという位置づけ。当初は3月に2日間の開催を予定していたが、コロナの影響で10/15に4時間のウェビナー開催となった。
  - ・ 小池委員長が OSS について発表する。
- 8) GADRI  
<資料 GADRI\_Membership\_Apr2020.ppt>の説明
- ・ 2021年3月ミラノで予定していたグローバルサミットは、バーチャルを含めた何らかのかたちで2022年6-7月ころの開催を目指す。

## 資料 24-11-01

### 9) 防災推進国民大会「ぼうさいこくたい 2020」 <http://bosai-kokutai.jp/>

- ・ 今年は一日間のオンライン開催。

### (3) 審議事項

#### 1) 提言について

<資料 10\_03\_01a\_提言.doc>、<資料 10\_03\_01b\_提言概要.doc>の説明

- ・ 委員の皆様から沢山のご意見をいただき、そのほとんどを提言修正の際に反映することができたが、「科学者コミュニティ」に関する文言は十分に反映することができなかった。
- ・ 最終的に山極会長にご判断いただき、1週間程度でウェブサイトに掲載予定。

<資料 10\_03\_01c\_ 提言英訳（初原稿）.doc>、<資料 10\_03\_01c2\_\_ 提言英訳（初原稿 2）.doc>の説明

- ・ レビュー前の原稿を NIED 中島さんが英訳して、その後 NEID 山崎さんに引き継がれ、レビュー後の修正を含めて山崎さんに更新してもらった。また、小野先生にも校正していただき、最終的に山崎さんにおまとめいただいた。
- ・ Appendix は ICHARM で英訳をして、林先生や田村先生にご確認いただいた。
- ・ 当委員の英文所属名について返答されていない方は、至急ご確認いただきたい。
  - 最終的に、小池委員長が記載の統一を行う。
- ・ 幹事会のご指摘により、提言のタイトルに修正があった。
- ・ 国連での議論に使われてきた防災に関する言葉／用語について精査する必要がある。また、日本学術会議での知の統合についての議論を、本提言で引用している。これらの用語の英訳については、注意しながら作業を進める必要がある。
  - 重要ポイントの英訳から先に着手する。

・ 「10\_03\_01c2\_\_ 提言英訳（初原稿 2）.doc」をご一読いただき、お気づきの点を 18 日（金）までに小池委員長へ連絡する。また、当委員会の英語名について、小池委員長による案を送るので、あわせて 18 日（金）までにコメントを頂きたい。

- ・ タスクフォース会議を開催して、問題となる表現を議論する。そして、その結果を 23 日（水）に本委員の皆様にもメールで共有する。問題がなければ、28 日（月）に当委員会としての英訳作業を終える。その後、内閣府のネイティブチェックが入り、必要であれば修正の上、最終的に HP 掲載となる。
  - ネイティブチェックに関して、背景が分かる人が良い。可能であれば、適任者の推薦も可能。
- ・ 早ければ 10 月中旬に Web 公開。10/15 の Asia Pacific Science and Technology Conference で小池委員長が発表される際に、併せて提言を紹介できると良い。

## 資料 24-11-01

- 英語版は和文提言に並列して掲載するので、作業が遅くなっても問題ない。

### 2) 24 期活動のまとめ

<資料 10\_03\_02\_委員会活動レビュー.docx>の説明

### 3) 今後の活動について

<資料 10\_03\_03\_24 期設置期間延長申請.docx>の説明

- ・ 24 期の課題への対応は、概ね達成できた。
  - ・ 次期（2021-2030）IRDR 計画が大事。今後はこれに注力する必要があるが、第三部の土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会で議論できる。
    - IRDR 委員会の中に（参加者の制限がない）小委員会を作って、行政や民間の方などを含め小委員会委員として参加いただくことが可能。
  - ・ 本検討委員会は第 24 期で幕を閉じて、将来このような議論が必要になった時に、その時の委員が課題別委員会の設置を考えるのがよい。
  - ・ 災害は世界共通の問題。世界平和のためにも災害を減らすことが大事なので、継続的に世界へ発信し続けて欲しい。
  - ・ 課題別委員会は、その時の執行部が重視するものをトップダウンで作ってきた経緯がある。当時は東日本大震災に関連する議論が必要であったので、国際展開に関する委員会を作った。既存の分科会（IRDR）に引き取ってもらうのは良い。
    - 一方、課題別委員会がなくなるとこれまでの歴史がなくなるので、来季の IRDR 分科会の始めに、課題別委員会の活動を踏まえて活動を統合することの経緯を示すことが大事。
  - ・ 今後も国際的な場で、日本のアカデミアとしてインプットを求められる機会がある。日本のアカデミアが集結して、情報共有と連携ができるネットワークは重要。
  - ・ WHO と UN ハビタットが合同で、都市・地域計画と健康に関するレポートを出した。今回のコロナは含まれていないが、今後、公衆衛生の問題を都市地域計画に位置付けていくような議論が進むと予感させる。公衆衛生分野との連携も今後考えていくと良い。
    - UN Habitat, WHO(2020), “Integrating Health in Urban and Territorial Planning”
    - 南先生に大きな役割を担っていただいている。
  - ・ 当委員会では、委員の皆様が熱心に議論にご参加いただき、大変充実した多くの議論を行い、良い成果を残すことができた。ご協力に感謝したい。
- ### 3) その他
- ・ 社会学委員会東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会から、原子力関連についての社会的モニタリングとガバナンスに関する提言が出た。

## 資料 24-11-01

- ・ 当委員会の議論と提言はレベルが高いので、『学術の動向』に当委員会から発信して欲しい。その場合、掲載は4月以降になるが特集を企画して欲しい。